

筑波大学アーカイブズだより

第5号

2021年11月30日 筑波大学アーカイブズ編集・発行

大学史編纂とアーカイブズ

館長 中野目 徹

寒風晴天の11月27日(土)、青山学院大学において、同学院史研究所の開設を記念するシンポジウム「学校史・大学史研究の可能性」が開催され、私もパネリストの1人として登壇し「筑波大学50年史編纂事業」という演題で30分ほどの報告をしました。他の登壇者は、東京大学教授鈴木淳氏、慶応義塾大学教授小川原正道氏、早稲田大学教授真辺将之氏の3人で、青山学院大学教授で同学院史研究所初代所長の小林和幸氏が司会を務めました。私以外の登壇者が勤務する大学は、いずれも150年史編纂事業に関する報告でしたが、本学も師範学校が明治5年(1872)に創基されてから数えると2023年には151年目を迎えることになり、他大学と較べてその伝統という点ではいささかの遜色ありません。

このシンポジウムにおける議論のなかで私が強調したことのひとつが、大学史編纂事業とアーカイブズの協力・連携ということでした。他大学、たとえば東京大学の場合、同大学100年史編纂事業で蒐集した資料を基礎として、『東京大学百年史』が完結した1987年に東京大学史史料室が設置され、2011年の公文書等の管理に関する法律いわゆる公文書管理法の全面施行を受けて、2014年の東京大学文書館に改組されたという歴史を有しています。それに対して、本学では大学史編纂とアーカイブズ設置の順序は逆で、2016年4月にまずアーカイブズを設置して、同年12月から50年史編纂事業を開始しました。

これまで本学で10年史や30年史が刊行できなかったのは、大学の歴史を証言するオリジナルな資料(原文書)が学内の各組織に散在していて、その概要すら把握できなかったことが原因だと考えられました。そこで、まずアーカイブズを設置して鋭意オリジナルな資料を収集し、それらを用いて最初に50年史の史料編を編纂・刊行し、50周年式典にあわせて写真集を発行、最後に50(+101)年の歴史を通観する通史編を執筆・刊行するという計画を立てています。

今年4月には、筑波大学50年史編纂室も開設され、アーカイブズが移管受入れや寄贈によって蒐集した所蔵資料を利用して、史料編に掲載する史料のデータ化と選別作業を進め、目次案のたたき台を作成するところまで進展しています。編纂・刊行スケジュールがタイトで、制度史中心の構成となっているなどの問題もありますが、アーカイブズと編纂室がいれば車の両輪となって50年史編纂事業を進めてまいる所存ですので、学内外の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。



「令和3年度アーカイブズ研修Ⅰ」 を受講して

筑波大学アーカイブズ主任 河野 眞純

新型コロナウイルスの感染が拡大して以降、会議や研修等がオンラインで実施されることが当たり前になってきました。本研修も例年であれば都内の会場に受講者を集めて開催されてきました。このようなご時世ですので、初めてオンライン（Zoom）も利用したハイブリッド形式の開催となりました。私はアーカイブズに異動して3年目になりますので、本研修が毎年開催されているのは十分認識していましたが、今回は絶好のチャンスと捉え、オンライン受講を希望しました。

今年度の開催期間は令和3年8月23日（月）から27日（金）までの5日間で、特にオンライン受講に関しては、主催した国立公文書館側が想定していた90人を大きく上回る120人近くが受講したことで、全体では140人を超える規模となりました。

オンラインであれば旅費の負担が無くなりますので、遠方からも受講しやすくなったことは間違いありません。

初日は、国立公文書館の中田理事による「アーキビストの使命と公文書館の役割」に続き、東京大学文書館の森本准教授による「アーカイブズの成立と基本理論」の講義、学習院大学大学院の下重准教授による「日本における公文書管理とアーカイブズ」の講義と、「公文書館における実務と課題」と題してテーマ別のグループ討論1コマが行われました。

大学を卒業して37年余。脳の耐久力もだいたい衰えていますので、1コマ90分の講義を長く感じましたが、こういう機会であればアーカイブズ学の講義を受けることはありませんので、心地よい疲労感とともに新しい知識に満たされた充実感がありました。

2日目から4日目は内閣府大臣官房公文書管理課の肥高氏による公文書管理法の概要についての講義に始まり、国立公文書館の各担当の方々による「公文書の評価選別」「特定歴史公文書等の目録作成等（所蔵資料情報の提供等）」「資料の保存・修復・環境管理」「電子公文書の保存・利用及びデジタルアーカイブ」「特定歴史公文書等の利用」「国立公文書館における展示について」「国立公文書館における広報の現在」「国内のアーカイブズ等との連携」の各講義が続き、その合間に事例報告として、神戸大学大学文書史料室の野邑室長補佐による「神戸大学大学文書史料室の活動について」と、佐賀県公文書館の江藤氏による「佐賀県公文書館の取り組み」のオンライン講義がありました。

ただし、3日目最後の国立公文書館の施設見学ができなかったのは残念でした。

これら各種業務の中で、普段の私は主に評価選別、目録作成、閲覧者対応等を担当していますが、その関係の講義に関しては、これまでの自分のやり方の点検になりましたし、修復や展示等に関しては全く経験がありませんので、とても勉強になりました。

最終日はテーマ別のグループ討論のまとめと発表となりました。テーマは「公文書の評価・選別」「公文書の利用と利用制限」「電子公文書、デジタルアーカイブ」「公文書の受入・整理・保存」「公文書館における普及啓発と公文書の展示・利用促進」の5つからの選択で、私は日常業務に該当する「公文書の受入・整理・保存」のテーマの班で討論を行い、最後に発表を担当しました。

私の班の受講者のほとんどは県や政令市から参加された非常勤職員の方々でしたので、大学から参加した私は班の中で少し異色の存在でした。しかし、文書の移管や寄贈を受けて保存し、公開することには変わりありません。また、私が担当していない業務を担当されている方もいらしたので、参考になる貴重な意見交換ができました。

当館では、毎週金曜日の15時から、当館を担当している教員2人と事務職員2人での連絡会を開いていますが、その場は個別の案件を通じての教員から事務職員への研修会にもなっています。したがって、私も全くの素人ではありませんが、体系的に研修を受ける機会はありませんでした。

また、私は今年度末で定年を迎えますが、もし希望が叶えば、さらにアーカイブズで勤務する可能性もあります。そう考えた場合、今回、本研修を受講したのはちょうど良いタイミングだったのかもしれませんが。

最後になりましたが、本研修では国立公文書館の研修連携担当の方々に大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。



対面での受講風景（国立公文書館提供）
*筆者はオンラインにて受講

所蔵資料の紹介

関東大震災前後の『国有財産異動報告』

助教 田中友香理

『自大正十一年四月一日至昭和二年三月三十一日 国有財産異動報告』（以下『国有財産異動報告』という）は、近日中に筑波大学アーカイブズへの移管を予定している財務部財務企画課の文書の内の一冊である【写真1】。表紙に東京文理科大学と墨書され、背に東京教育大学会計課の文書ラベルが貼付されているが、内容は、大正12年（1923）7月の火災と9月の関東大震災、11月の火災による東京高等師範学校の建物の「滅失」と「復旧」に関するものとなっており、表紙の情報とは作成者が異なる。また、3件の火災に関する文書の秩序が崩されて編綴（乱丁）されており、必ずしも保存状態の良いものとはいえない。

とはいえ、現在、当館で所蔵している東京高等師範学校時代の文書としては、教職員の身分異動を記録した『進退書類』が挙げられるが、その他体系的な文書は見当たらず、『国有財産異動報告』が東京高等師範学校の土地と建物に関する稀少な歴史公文書等のひとつであることは間違いない。したがって、以下においては、同簿冊から明らかになる点を紹介していきたい。

1点目は、建物を新築した際の文部省と東京高等師範学校間の文書処理の実際である。文部省直轄諸学校のひとつである同校の土地と建物の「滅失」と「復旧」については、学校及図書館特別会計法（明治40年法律第23号）において、文部大臣が歳入歳出の予算を「調製」し、「学校及図書館長」に「施行」させるとされていることから、すべて文部省に報告しなければならなかった。たとえば、大正14年10月7日付で同校校長三宅米吉宛に文部大臣官房建築課長と同会計課長から新築の化学実験室・物理実験室・薬品庫等（13年1月起工）の「引渡」と「領収書回付」の依頼がなされ、9日には建築課長・会計課長宛の同校校長の「領収」書案が主査、幹事、校長の決裁を経て決定された【写真2】。その後、12月2日に文部大臣官房会計課長から三宅校長に対して建物の「維持資金」への「編入」が通知された。

2点目は、関東大震災とその前後の火災の被害についてであ

る。大震災によって、本郷の東京帝国大学が大きな被害を受けたことは周知の事実である。東京高等師範学校では大正12年7月14日に神田区一ツ橋通にあった附属分教場が、隣の一ツ橋小学校の失火によって「火災被害」を蒙り、31日付で文部大臣宛の報告案が決定された。これは大震災発生約1か月前のことである。そして、大震災の約1か月後の10月8日付で文部省から「震火災」による「国有財産」の「滅失」に関する照会があり、11日付の回答には附属分教場の「全焼」が報告された。東京文理科大学編『創立六十年』（1931年）では、震災によって一ツ橋通の「小学校旧校舎」が焼失したと掲載されているが、この記載は誤っている可能性が高い。

東京高等師範学校の建物は、関東大震災の被害をほとんど蒙らなかったため、震災で全焼した文部省や東京女子高等師範学校の一時移転を受入れた。しかし、この混乱は予期せぬ事態を引き起こした。11月16日に女子高等師範学校の生徒が化学教室での実験に失敗し、西館教室・化学階段教室・剣道場等を全焼させる火事を起こしたのである。茗溪会の雑誌『教育』第487号（同年12月24日）は、このことを記事として伝えている。

以上のように、『国有財産異動報告』に収録された「国有財産」に関する文部省への報告から、関東大震災の被害は免れたものの、その前後に東京高等師範学校は2度の火災に見舞われ、対応に追われていた実態が垣間見えるのである。

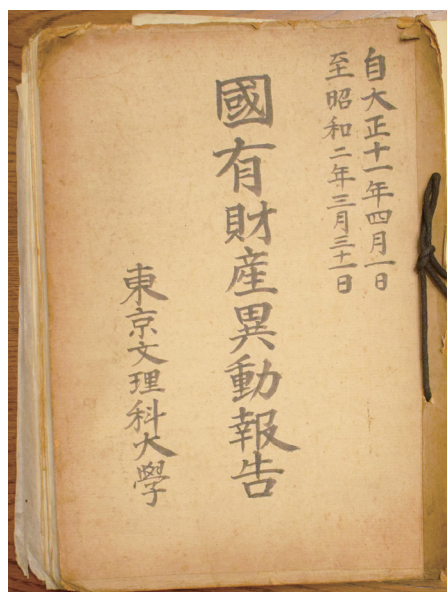


写真1 文書の表紙

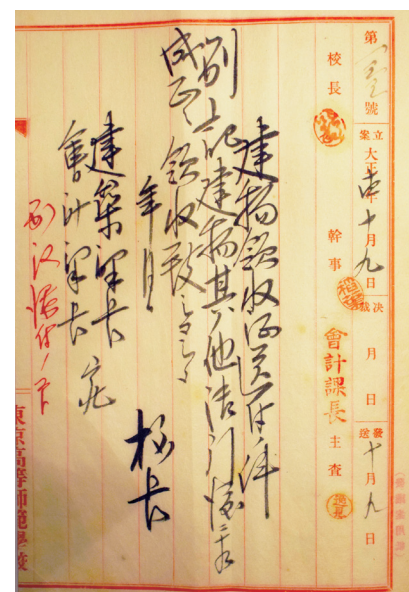


写真2 決裁書のかがみ

業務日誌 (抄) 2020年11月～2021年10月

2020

- 11.30 「筑波大学アーカイブズだより第4号」を発行。
12.21 第16回運営委員会を開催(～2021.1.8メール会議)。

2021

- 2.22 つくば機能植物イノベーション研究センター農場(旧農林技術センター)から資料を受け入れる。
3.25 C書庫を部分整備。
3.26 監査室、企画評価室、総務部総務課、総務部人事課、総務部組織・職員課、財務部財務企画課、財務部財務管理課、施設部施設企画課、教育推進部教育推進課、教育推進部社会連携課、学生部学生生活課、研究推進部研究企画課、研究推進部外部資金課、学術情報部情報企画課、学術情報部アカデミックサポート課、人文社会エリア支援室、社会人大学院等支援室、数理物質エリア支援室、生命環境エリア支援室、体育芸術エリア支援室、医学医療エリア支援室、図書館情報エリア支援室、病院総務部総務課、東京キャンパス事務部学校支援課、東京キャンパス事務部企画推進課、国際統合睡眠医科学研究機構、人文学類長室、社会学類長室、

- 人文社会科学研究科長室から資料を受け入れる。
4.22 「筑波大学50年史編纂室」を設置。
5.19 第17回運営委員会を開催(オンライン)。
5.31 「筑波大学アーカイブズ年報」第4号を発行。
6.9 学生部から前身校関係資料を受け入れる。
6.10 全国公文書館長会議に田中助教・北村専門職員出席(オンライン)。
6.14 岡崎千代子氏より岡崎昭夫名誉教授関係の資料の寄贈を受ける(中野目館長・田中助教、宇都宮市へ出張)。
7.1 筑波大学50年史編纂室に特任研究員1名採用。
7.20 第1回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(ハイブリッド)。
8.23 令和3年度アーカイブズ研修Iを河野主任受講(～8.27、オンライン)。
9.28 財務部から前身校関係資料を受け入れる。
10.6 閲覧室臨時閉鎖の全面解除。
10.7 人文学類から人文学類卒論を受け入れる。
10.27 第2回筑波大学50年史編纂室員会議を開催(ハイブリッド)。

資料の受入れ 2020年11月～2021年10月

■特定歴史公文書等：移管資料

監査室、企画評価室、総務部総務課、総務部人事課、総務部組織・職員課、財務部財務企画課、財務部財務管理課、施設部施設企画課、教育推進部教育推進課、教育推進部社会連携課、学生部学生生活課、研究推進部研究企画課、研究推進部外部資金課、学術情報部情報企画課、学術情報部アカデミックサポート課、人文社会エリア支援室、社会人大学院等支援室、数理物質エリア支援室、生命環境エリア支援室、体育芸術エリア支援室、医学医療エリア支援室、図書館情報エリア支援室、病院総務部総務課、東京キャンパス事務部学校支援課、東京キャンパス事務部企画推進課、国際統合睡眠医科学研究機構、人文学類長室、社会学類長室、人文社会科学研究科長室

■特定歴史公文書等：寄贈資料

岡崎千代子

■参考資料

学内

広報室、生存ダイナミクス研究センター、プラズマ研究センター、研究基盤総合センター工作部門、附属図書館、附属小学校、日本近代史研究会

学外

国立国会図書館、福井県文書館、公益財団法人渋沢栄一記念財団、和歌山県立文書館、三重県総合博物館、京都大学文書館、常陸大宮市文書館、沖縄県文化振興会公文書管理課、富山県公文書館、札幌市公文書館、東海大学学園史資料センター、慶應義塾福澤研究センター、愛知県公文書館、日本大学企画広報部広報課、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ、岡山県立記録資料館、東京大学文書館、千葉県文書館、広島県立文書館、東北大学学術資源研究公開センター史料館、国立公文書館、広島大学文書館、新潟県歴史資料保存活用連絡協議会、明治大学史料センター、大阪大学アーカイブズ、宮内庁書陵部、北海道大学大学文

書館、山口県文書館、一橋大学創立150年史準備室、防衛省防衛研究所、外務省外交史料館、相模原市立公文書館、藤沢市文書館、茨城地方史研究会、新潟県立文書館、福岡共同公文書館、安曇野市文書館、茗溪会、国立国会図書館関西館、関西大学年史編纂室、福島県文化振興財団、神戸大学大学文書史料室、大仙市アーカイブズ、東海国立大学機構大学文書資料室、京都府立京都学・歴史館、広島市公文書館、早稲田大学大学史資料センター、富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会、北海道大学150年史編纂室、神奈川県立公文書館、渋沢史料館、高知県立公文書館、東京都公文書館、宮内庁宮内公文書館、新潟市歴史文化課、琉球大学、大沼宜規、国文学研究資料館、新潟県燕市、熊本大学文書館、天草市立アーカイブズ、国土館大学、立教学院史料センター、日本女子大学成瀬記念館、大東文化大学百年史編纂委員会、歴史人類学会

筑波大学アーカイブズ

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-4127 (代表)

メール：univ-archives@un.tsukuba.ac.jp

H P：https://archives.tsukuba.ac.jp/

つくば駅からアーカイブズまでのアクセス

【バス】

関東鉄道バス「筑波大学中央行」or「筑波大学循環」に乗車後約10分、「第一エリア前」で下車、その後徒歩約2分

【お車】

駐車場もございますので、お車でございましたことできます(数に限りあり)。

